

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)与野プロジェクト新築工事	階数	地上12F
建設地	埼玉県さいたま市中央区大字下落合	構造	RC造
用途地域	商業地域、法22区域内	平均居住人員	68人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2018年10月5日
敷地面積	425㎡	作成者	斉藤工業株式会社一級建築士事務所 本田圭一郎
建築面積	207㎡	確認日	2018年10月5日
延床面積	2,046㎡	確認者	斉藤工業株式会社一級建築士事務所 本田圭一郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
ペアガラスの採用や屋根・壁・床に十分な断熱をするなど、建物の熱負荷低減に配慮した。		-
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
内装材は、F☆☆☆☆を積極的に採用し、室内環境向上に配慮する。	階高を2.9m以上とし、空間のゆとり確保に配慮する。	敷地境界周囲には、見通しの良いフェンスを設置し、多様な良く物を用いた緑地を計画し敷地内の自然環境保護に配慮する。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
Low-eガラスを採用して熱負荷低減に配慮した。高効率な機器を採用しエネルギーの削減を図った。	ライフサイクルCO ₂ の削減に努めた。フロンラベル機器を採用した。光害への配慮を行った。	居住者の為の適切な量の自転車置場を計画。ゴミ置場を敷地内に計画し、多種分別が可能なストックスペースを確保。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される